



ピンチをチャンスに！ 秋田の価値創増に期待

[秋田市観光クチコミ大使]
公益社団法人 日本観光振興協会
観光地域マネジメント部長

かたの
あつし
片野 篤氏

秋田には2015年4月に着任し、2019年の3月まで過ごしました。家族を帯同し、全員で秋田の生活を満喫しました。私にとっては、秋田は特別な場所です。

赴任中の4年間は、全日本空輸株式会社の業務で、皆様から多大なご支援を頂きました。勤務を始めると直ぐに、運輸事業者として、地域の活力がいかに大切であるかを肌で感じるようになりました。地域に住む皆さんが活発に外へ出て、外からもビジネスや観光でお客様が頻繁に訪れてくれるための仕組みが不可欠であることを再認識しました。その一つとして、地域社会と外部のステークホルダーによる協同は欠かせません。古い話で恐縮ですが、2016年秋に「Tastes of JAPAN by ANA」という取り組みを行いました。秋田の生産者の方々と連携を取りながら、秋田県産品を活用した料理を国際線機内食で提供し、空港ラウンジや機内メディア等で秋田の観光名所や銘品を紹介させて頂きました。

秋田では、秋田空港と大館能代空港の二空港が開業しています。大館能代＝羽田線の利用促進は、今でも重要課題ですが、在任中は皆様のご協力を得ながら実績を漸次上昇させることができました。昨年は、鷹巣西道路開通の嬉しいニュースを聞きました。秋田空港と大館能代空港を一つの面で捉え、両空港による連携の可能性が高まり、秋田における新しい価値が創造されることを期待しております。

さて、現在は公益社団法人日本観光振興協会に勤務し、東京から観光業界の目線で秋田を見つめております。昨年春先に新型コロナウイルスの感染が本格化して以降、観光業界は秋田でも深刻な打撃を受け続け、2021年も長いトンネルから抜け出せないまま始まりました。この原稿を執筆している時点で、全国11都府県を対象に緊急事態宣言が発令される事態になりました。先行きの展開は全く不透明ですが、必ず来る収束の時に備えて、今できることを積み重ね、歩みを止めないことが大切だと思います。

日本の各地を見渡すと、ピンチをチャンスと捉え、新しい試みに取り組む地域があります。秋田の観光も、この難局を未来の変革に向けた好機にすることはできないでしょうか？

最初に思い浮かぶのは「発信力の向上と変化」です。コロナ禍はデジタルによる技術革新を加速させ、ヒトとヒト、地域と地域の結びつき方の在り様は大きく変化しました。秋田に居ながらにして、日本だけでなく世界の各地と繋がり、低コスト・高深度で秋田の情報を訴求できる(直接、間接両面で)可能性が高まりつつあります。秋田は自己PRが苦手で控えめ過ぎるという自己評価をよく耳にするところですが、良い方向に変えていく契機にできるかもしれません。

また、コロナ禍の長い閉塞期間を経るなかで、人々の観光に対する意識は確実に変化しつつあると言われています。従来型の過密地域を避け、豊かな自然と文化、日常の風土や人情を深く求めて一つの訪問地により長期滞在していく個人型の旅行者が増えてくるのではないのでしょうか？このような変化は、秋田のような土地柄には追い風になるのではと期待しています。

表題に価値創増と書きましたが、これは価値創造を捻ったものです。秋田には、長い間培われた価値が豊富にあります。既にある沢山の価値が秋田の外に向けて発信され、理解の輪が広がることでその価値は増していくはずで。私も秋田市観光クチコミ大使の一員として、微力ですが秋田の魅力を伝えるお手伝いを続けさせて頂く所存です。

■略歴

- 1965年 東京都生まれ
- 1989年 全日本空輸株式会社 入社
- 2015年 同社 秋田支店長
- 2019年 公益社団法人日本観光振興協会 派遣